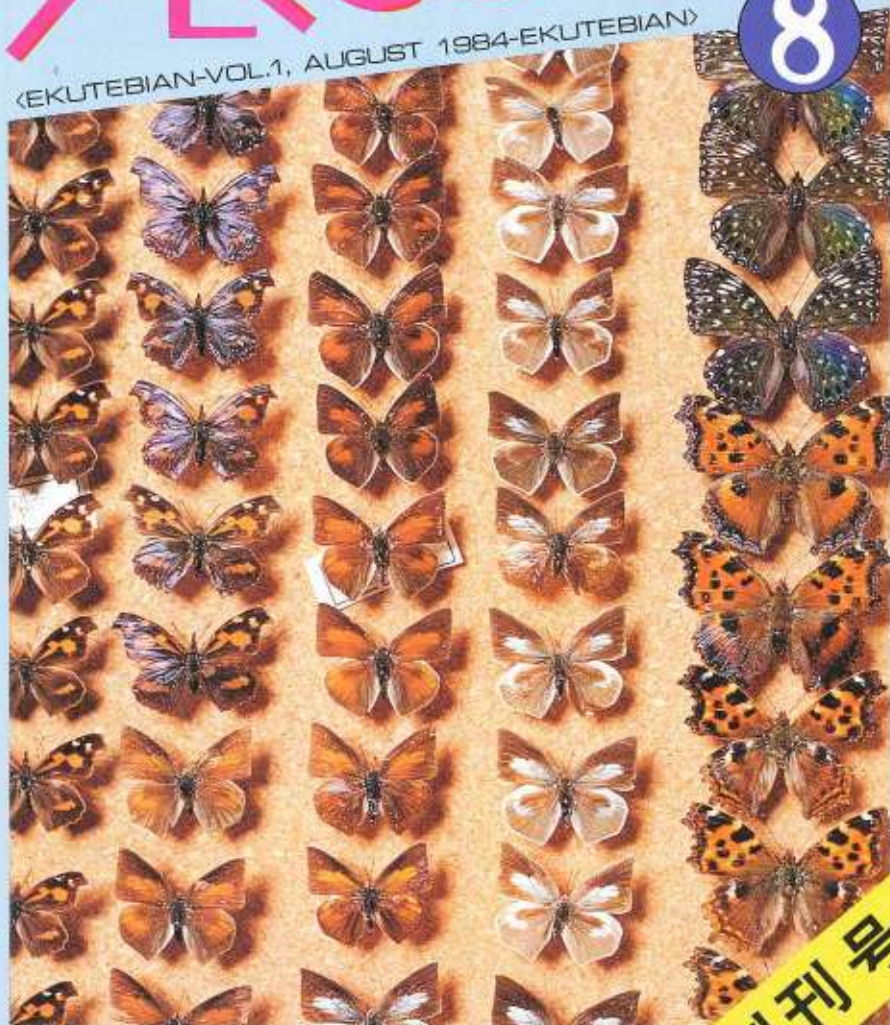
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

8

<EKUTEBIAN-VOL.1, AUGUST 1984-EKUTEBIAN>

創刊号

まいこれくしおん■「蝶」by 野口慶次

泡が夜風にゆれている。夏の風物詩はガーデンに

●立川ニュー東京
ウィルビヤガーデン

ステーション・ビル「ウィル」の最上階で、夏の夜風をうけてのイッパイは、もう「風物詩」に近い。多摩の夜景がこれまた美しく望める、多分、家族づれがちらほら見えるのもこの辺にあるのだろう。
ビデオスクリーンで野球中継も楽しめる。8月からはフラダンスもあるよ。
熱帯夜が続く昨今、家族そろっての夕涼みにも。

●立川平安閣

8月18日まで「納涼バイキング生ビールまつり」がおこなわれ、人気を集めている。夕方6〜9時まで、大人3、800円、小中学生1、800円。料理はうまいし、生バンドはつくし。盛夏、一飲の価値あり。
要予約　電話(27)1121

●高島屋ビヤガーデン

立川二大ビヤガーデンのひとつ。ショッピングのあとに気軽るに立ち寄るのか、日曜などは家族団らんの風景がみられる。子供にはトロピカルドリンクがうけているとか。「大人のたまり場」というイメージはもう古い。

それぞれの店、それぞれの工夫。味わえば生ビール

●一文銭

北口、駅道路ぞいに今年の五月「一文銭」がオープンした。店内の明るいムード、料理も豊富で特に新鮮な魚介類の盛合せは格安と大好評。
料理がビールをひき立て、ビールが料理をひき立てる夏のダイゴ味を立川で味わえる、うれしいねえ。

●串焼きと釜めしの庄屋

ウィル9階、民芸風の造りでしかも都会的に洗練された「庄屋」は、ピーク時には列をなして待ち客がいるほどの人気。
女性客が案外と多く「レディスサイズ」はお店の心づかい。

●大衆酒場　ひげの銀月

南口を市役所方向に歩いて左側。ほとんどのオツマミが180円という安さはやはり魅力。特におすすめ品は「煮込み」で量、味ともに満点。

●田舎酒屋　ほうさく

南口諏訪通りにある。腰をかがめて小さな障子をあけると、農家の土間をおもわせる造り。
「ほうさくピザ」に生ビールが意外なハーモニー。ふるさとの香りゆたか。

●炉ばた焼き　玉河

北口、郵便局の何軒か先に本格炉ばた焼き「玉河」がある。二階がいい。民芸風の造りで落ちついた感じが酒場の気分を盛りあげている。黒ナマを飲ませる立川唯一の店ではないか。「通」のあなたにおススメの店。

なぜか、エトランジェのムードが立川にあったり

●ピザパーラ　シェーキーズ

20種類のピザと生ビールはこの店が誇りとするメニュー。セルフサービスのオープンな雰囲気も人気のようだ。ピッチャーサイズ（小4杯分）の生ビールで楽しい語らいを!

●ビヤレストラン　武蔵野

生ビールを直接タンクから注いでくれる。天井も高く、ビヤホールの雰囲気マンテンの店である。売り物は「特製ハンバーグ」で、昼の定食が380円というのも魅力的。立川郵便局隣。

立川伝言板

☆**諏訪まつり**

伝統ある諏訪まつりが今月24、25、26日におこなわれる。〝お諏訪さま〟は平安時代の初めより今に続く由緒ある神社。奉納される獅子舞は、元禄年間より柴崎町、富士見町地区の氏子に伝えられてきた、立川市の無形文化財である。

奉納相撲も人気のひとつ。もちろん、夜見世、見世物小屋も多数でにぎやか。〝立川の夏〟には欠かせない一大イベントになってきた。

☆**夏休み学習室**

宿題、レポート、読書は冷房完備の「学習室」でと、うれしい呼びかけ。

7月21日−8月31日（第2、第4水曜日は休館）まで、中央公民館、高松公民館、砂川公民館で。

☆**戦争を語りつぐ'84展示**

中央公民館で、8月4日まで開かれている。また「戦争を語りつぐ集い」は、8月5日午後1時30分から4時まで、同じく中央公民館で。

☆**映画会のお知らせ**

親子で夏休みのひと時、映画を楽しみませんか。

「三年寝太郎」「ぼくらの秘密探偵団」。8月4日、午前10時と午後2時。高松公民館で。

「おば捨て山の月」「わんぱく龍王たいじ」。8月24日、午前10時、砂川公民館で。また午後2時には幸分館で。

真如苑だより

立川の皆さまと共に歩んで四八年になります。真如苑では皆さまに、より一層ご理解を深めて頂ければと、私どもの精舎のご案内など準備を急いでおります。ご期待ください。

☆**「ブレーメンの音楽隊」公演**

劇団飛行船公演のマスクミュージカル。

新しいお話で、楽しさいっぱいのミュージカルが立川へやってくる。グリム童話より、脚本が若林一郎、音楽はいずみたく。

8月26日、午前11時と午後2時。立川市民会館大ホール。

☆**第九合唱団員募集**

ベートーベンの「第九」には〝人間〟があります、〝愛〟があります、〝感動の涙〟があります。

誰でも参加できます。

音譜がよめなくても、合唱経験がなくても、わずか4か月の努力で「第九」はうたえるようになります。

問い合せ先　「三多摩第九合唱団準備会」へ。

電話　0425−76−9247。

☆**立川点字サークル**

ボランティア活動に参加しませんか。

立川点字サークルは、毎月第1と第3木曜日、午後1時30分から3時までです。

問い合せ先　0425−37−1735、星　妙子さんまで。

☆**「立川伝言板」へ伝言を！**

この欄は、立川に関するあらゆる情報の交換のために設けられました。サークル活動、同窓会、バーゲンセール、めずらしい人物紹介、名物先生、ボランティア活動などなど「えくてびあん編集工房」まで。

えくてびあん豆事典

お盆

毎年、この頃になると、帰省ラッシュが話題をさらう。

お盆—お盆は、正月と並び日本人の二大歳事として、広く庶民の生活に浸透している。

ところで、このお盆、正式には盂蘭盆会というのをご存知だろうか？

盂蘭盆とは梵語のウランバナ（Ullambana）の音写で、倒懸といい、さかさに吊されるようなはげしい苦痛を意味するという。

盂蘭盆会の起りは、遠く釈尊の弟子の一人、目蓮尊者が、餓鬼道におちて、この倒懸の苦痛にあえぐ亡母を救うため釈尊に救いを求めた事に由来する。

このことは盂蘭盆経という経典の中に詳しく記されている。

また、日本における盂蘭盆会の歴史を調べてみると、斉明天皇三年（六六三年）にはすでに行われており、やがて室町時代には、灯籠流しや大文字焼きなどの行事がおこる。また庶民の間にも、精霊祭が行われるようになり、今日の〝お盆〟につながっていることがわかる。

迎え火をたき、供え物と同じものを食べて、祖霊とともに過ごすこのお盆。かつて、目蓮尊者に〝汝の孝養の心だけでは、亡き母を救うことはできない。三宝（仏・法・僧）に供養し、その力にすがりなさい〟と説かれた釈尊の教えを想い、お盆を考えるのもよろしいのでは？

そういえば、夏の風物詩である盆踊り、救われてゆく先祖の歓びの姿を表現しているとか。

立川プロムナード

根川公園

立川駅の南口をまっすぐ多摩川に向って歩いて十五分。立川バイパスの手前にあおあおとした緑地帯がつづく遊歩道がある。

その遊歩道の中を根川が静かに流れている、ここは根川公園。

琴平橋から市民プールまで約一キロを歩いてみると根川に沿って桜やコブシ、エンジュなどの樹木が茂り、小鳥がエサをついばむ光景にもであう。昔はこの小川にボートをうかべて遊んだというが、もうそのおもかげはない。ただ静かな風景だけは変っていない。今も、季節の花が咲き乱れ心をなごませてくれる。ベンチにこしかけ弁当を広げる人、会話をはずませる夫婦、根川で水遊びを楽しむ子供も目につく。

日曜でもあまり人は多くないのでぶらっとでかけるにはいい。もう少し歩くと、車の流れの多い甲州街道にぶつかる。その手前にその騒音がうそのような静かなたずまいの場所がある。下水処理場の隣りに位置するそこは、一面、芝生がしきつめられ、全身なげだして寝ころびたい思いにかられる。

静かにいろいろな事を考えながら一人黙して歩くのもたまにはいい。昔も今も変らず根川だけは静かにそこを流れている。

立川クイズ　第一回

立川市の木は何でしょう？

①ひのき　②けやき　③なら

（正解は9月号）

小森のおばちゃま人生相談

うじうじしない、一生が〝婚期〟ですもの。

質問　29歳のOL。いまだにいい縁談にめぐまれません。母も「縁遠い」と誰かれとなく言いふらしている始末です。気が重い毎日で、そういう自分がイヤになっています。（曙町　S子）

答え　おばちゃまだって、結婚したのは32歳だったから、世間の〝適齢期〟ということからいえば、ずっとおくれてたわけね。でもね、おばちゃまは気おくれしたり、焦ったりしたことは一度もなかったわ。

今とちがって、おばちゃまの時代に焦らないなんていうとウヌボレがつよいように思われちゃうけど、自分の体験から言わせてもらうと、なんでもいいから働いてることね。その場合、給料がいいとか悪いとかにこだわらないで、自分の好きな仕事をすることね。

好きな仕事をして、自分の望む程度の楽しい生活をしてましたからね、結婚が最高だとは思っていなかったのね。まして、今日のような時代ですもの、一生が〝婚期〟だといってもいいんじゃない。

この時代に〝縁遠い〟なんてコンプレックス感じる必要、ぜんぜんない。自分の仕事をもっていれば、好きな男ができなくても、一生ひとりでもいいんですものね。「自分で生き、自分を養う」これは男女をこえた人間本来の生き方じゃないかしら。〝適齢期〟なんて迷信にまどわされないこと、しっかり生きていってちょうだいね。

“!?”　千葉樹之

表紙の語る

くみつくせない蝶の魅力

アサギマダラ、モンキアゲハ、ツマキチョウ、ウスバシロチョウ、ジャコーアゲハ……、野口慶次さんのお宅（栄町三丁目）には、玄関といわず、居間といわず、応接間といわずズラッと蝶々がその美しさを競うかのように並んでいる。ざっと90種、千三百匹。

「うちは一種類の数はそろっている方かもしれないですが、種類としては少ない方です」

奥さんの幸子さんがケンソン。うちといっているように、一家そろってのホビー。奥さんが運転、ご主人が助手席、二人のお子さんがうしろの席。

「私が一番先にみつけるんです、たいてい。主人と子供たちが追いかけて……」

長男の徹也君（20歳）が中学生の頃に一番採集できたというから、昨日今日のホビーではない。そして今や、次男の浩司君（14歳）が捕獲技術で一番とか。

コレクションを眺めていると〝天然の美〟に酔いそう。野口さん一家は更に深い美を求めて今年の夏もまた——。

編集室から

●立川市にもタウン誌が全くなかったわけでは、ない。が、志なかばにして消えていった。先輩たちのテツをふむか、ふまぬか、とにもかくにも我が〝えくてびあん号〟は錨をあげた、帆を張った。●それにしては、ワラ半紙大の紙を四ツに折っただけのもので〝誌〟とも呼べないのではないか。そうケゲンな顔をなさるな、世は「軽薄短小」まっさかりである。いい記事を少しだけお届けする、これが昭和六十年を迎えんとする日本雑誌界のア・ラ・モードであろう。●「えくてびあん」とは「聴いて下さい」（Listen to me）のフランス語とか。誰かスペルを教えてくれぬだろうか。

（編集）青木智司　沖野嘉男　加賀桂子　隅川輝　中村信世　平井千恵子　矢野義範　山田五郎
（写真）天野武男　吉田義治　スタジオ269

月刊えくてびあん　第1号
昭和五十九年八月五日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町1の2の13
電話　〇四二五（28）〇〇８２
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷
定価　五〇円

前略。私の「消夏法」といったらやはり囲碁ですね。勝負ですから厳しいこともありますが、夢中になれる楽しみがあります。囲碁というと、難しいと考えている方が多いと思うのですが、本当はとても自由なゲームで、きまりは少ないんじゃないかしら。最近は子どもたちを相手にすることも多いのですが、ハッとするような子どもの自由な発想には驚かされることがありますね。それから、盤上にはその人の性格、個性が出て来ますから面白いですね。話をするより、一局お手合わせするほうが、相手の方のことよくわかるんですよ。
ちょっと理屈っぽい気もしますね。

第24回全日本女流アマ本因坊
堤 加蓉子

堤　加蓉子さんは、立川五小、立川二中のご出身、現在は高松町にお住まいです。